

第2学年国語科学習指導案

日 時 平成18年7月3日(月) 第2校時

対 象 男9名 女7名 計16名

指導者 中谷 江利子

1 教材名 「分かったことを伝えよう」 学図2年上巻

2 教材について

(1) 学習指導要領との関連

【読むこと】

ア 易しい読み物に興味をもち、読むこと。

イ 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

【書くこと】

ア 相手や目的を考えながら、書くこと。

イ 書こうとする題材に必要な事柄を集めること。

ウ 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書くこと。

(2) 教材の内容

教材観・指導観

児童は、説明的な文章などを読むと、内容について疑問を持つことが多い。その疑問をそのままにしないで、自分に必要な情報を探しながら目的を持って本を読むことは、読書の幅を広げ、楽しんで読書しようとする態度につながる。

この学習材は、前単元の説明文「ほたるの一生」の学習を通して出てくる、もっと詳しく知りたい、もっと広く調べたいという児童の意欲のもとに展開できるものである。情報活用に関わる言語活動の初歩段階として、図書室を利用してみること、さらに本を探して読むことにより、疑問に思ったことが解決できたり、もっと詳しく知ることができたりという読書経験をさせることができる。

具体的な活動手順は次のように示されている。

1 知りたいことはなんですか。

2 図書室へ行って本を探して読みましょう。

3 読んで分かったことをみんなに伝えましょう。

1は、「ほたるの一生」を読んで、不思議に思ったことやもっと知りたいと思ったことを発表させる活動である。

2は、1の疑問を解決するために、図書室を利用させる活動である。児童は読書の時間を設定して図書室に行っても、なかなか本を選べないこともあるが、おもしろそうな本を選ぶこと自体が読書意欲を高めるきっかけとなる。

3は、調べて分かったことを発表し合う活動である。教科書では取り上げていないが、調べて分かったことを文に書く活動もさせたい。「ほたるの一生」と比べながら読ませることで読み取りの観点を明確にさせ、「ほたるの一生」と比べながら書かせ

ることで時間の順序に気をつけて書かせたい。また、聞き手は大事なことを落とさないように聞くことができるように指導したい。

3 目標

- (1) 調べたいことなどに関係のある資料を探して調べることができる。 【読むこと】
- (2) 時間的順序・事柄の順序をとらえながら読むことができる。 【読むこと】
- (3) 書くために必要な事柄を選び、順序をとらえながら、生き物の成長過程を文章に書くことができる。 【書くこと】

4 児童の実態

1年生3学期から家庭学習の一つとして日記を書かせてきた。初めは2, 3行しか書けなかった児童がほとんどであったが、だんだん長文が書けるようになり、今では1ページ, 2ページと書ける児童が増えてきた。そんな本学級の児童に以下のようなアンケートを実施してみた。

1	日記を書くのが好きですか。			
	とても好き… 12人	ふつう… 3人	嫌い… 1人	
2	日記を書くことができますか。			
	よく書ける… 8人	書ける… 7人	書けない… 1人	
3	読む人にわかるように工夫して（例 様子がわかるように）書いていますか。			
	よく工夫… 2人	やや工夫… 8人	工夫していない… 6人	
4	書いた後に読み返して、間違いがあったら直していますか。			
	必ず直す… 5人	時々直す… 7人	直さない… 4人	

日記を書くのが好きと答えた児童が多かった。継続的に取り組んでいるうちに日記のおもしろさがわかってきたのであろう。1と2を関係づけて考えると、とても好きと答えた児童は長い文章が書けるようになった児童が多かった。逆に、嫌いと答えた児童は文がなかなか書けない児童であった。3や4は、1や2に比べれば達成率は低い、全く意識していないわけではないらしい。しかし、書かれた作品を見ると、今一步である。低学年であるので内容の工夫が足りないのは仕方がないが、助詞や促音脱字など誤った表記が目立つことはとても気にかかる。以上から総合的に考えると、児童は書きたいという意識はあってもどのように書いたらいいのか、工夫すればいいのかわからないのではないと思われる。

5 校内研との関わり

研究主題

「伝え合う力」を育む国語科学習指導法の研究

相手を意識して書く活動を取り入れた国語科学習指導法の研究

研究目標

国語科の学習において、伝え合う力を育むためには、相手を意識した書く活動を工夫することが有効であることを実践的に明らかにする。

研究仮説

国語科の学習において、発達段階に応じた書く力を明確に指導者が意識し、対読者意識や表現方法の指導を工夫して授業の中で生かしたり、日記・作文などの家庭学習と連動させたりしながら、書く活動を日常化していくことで、思考力や表現力が培われ、伝え合う力が育つと考える。

(仮説1)

書く活動の時間を確保することにより、思考力や表現力が高まり、伝え合う力を伸ばすと考える。

(仮説2)

学習内容の定着のために、指導段階に定着を図る時間を設定していくことで、国語力全般の向上が図れると考える。

(仮説3)

読書指導を充実させることにより、語彙量が増えるとともに思考力や表現力も高まり、伝え合う力が伸びていくと考える。

提案仮説

(仮説1について)

書く時間(機会)を確保し、互いの作品について助言し合ったり、よさを認め合ったりする場を設けることで、工夫の仕方が分かり、表現力が高まる。

(仮説2について)

モデルとなる教材文を提示し、自分が書こうとする内容と比較させることで、書くための観点が明確になり、作文が書きやすくなる。

6 指導計画(9時間)

時	指導内容	目標	◇評価 ◆留意点
1	「ほたるの一生」を使って、筆者の論の展開の仕方(問題提起→成長過程→まとめ)をとらえさせたり、どんな内容について書かれてあるかを確認させる。	説明文の書き方を調べよう。	◆「ほたるの一生」の全文を書いたプリントを用意して、段落と段落を比べながらとらえさせる。 ◇筆者の論の展開の仕方やどんな内容について書いているかが分かる。 【読むこと】
2	どんな生き物の一生について調べるかを決めさせ図書室で本を探させる。	他の生き物の一生について調べよう。 (本を見つけよう)	◆ほたと似た成長過程をたどる生き物の方が説明文を書きやすい。卵から成長していく生き物を選ばせる。 ◆ほしい本が図書室にない場合は教師が資料を探して用意する。

			◇調べたい生き物を決めて本を探している。 【関心・意欲・態度】
3 4	本や資料を読み、書くために必要な情報を見つけ てチェックさせたり，表にまとめさせたりする。	他の生き物の一生について調べよう。 (大事なことを読み取ろう)	◆成長過程が似た生き物を選んだ者同士で班をつくらせる。 ◆読み取り能力の低い児童もいるし，内容が難しい資料もあるので，児童の理解度に応じて支援する。 ◆自力で読み取りができる児童には説明文を書くために必要な情報を表にまとめさせたり，読み取れない児童に助言したりさせる。 ◇説明文を書くために必要な情報を集めている。 【読むこと】
5 本 時	「ほたるの一生」の説明文や前時までに集めた情報をもとに，中の部分(卵)について書かせる。	他の生き物の一生について調べよう。 (「〇〇の一生」の説明文を書こう～卵について～)	◆1つの生き物を例に全体で書き方を考えさせてから個人で書かせる。 ◆書いた作品を読み合わせる。 ◇自分が選んだ生き物の卵の様子が分かるように書いている。 【書くこと】 ◇作品についてよさを見つけたたり，助言したりする。 【関心・意欲・態度】
6	「ほたるの一生」の説明文やこれまでに集めた情報をもとに，中の部分(卵以降)について書かせる。	他の生き物の一生について調べよう。 (「〇〇の一生」の説明文を書こう～おとなになるまで～)	◆書いた作品を読み合わせる。 ◇卵以降の成長過程を順序をとらえながら書いている。 【書くこと】 ◇作品についてよさを見つけたたり，助言したりする。 【関心・意欲・態度】

7	自分が選んだ生き物の行動の特徴を考えて、はじめと終わりの部分を書かせる	他の生き物の一生について調べよう。 （「〇〇の一生」の説明文を書こう～書き出しとまとめを書こう～）	◆書いた作品を読み合わせる。 ◇生き物の行動の特徴を考えて書いている。 【書くこと】 ◇作品についてよさを見つけたり、助言したりする。 【関心・意欲・態度】
8	5～7時までの作品を読み返し、表記上の誤りや内容の工夫などを検討させ、一つの作品にまとめる。	「〇〇の一生」を読み返して清書しよう。	◆書いた作品を読み合わせる。 ◇文章を読み返し、間違いを直しながら清書している。 【書くこと】
9	互いの作品を読み合い、よさを見つけさせる。	「〇〇の一生」発表会をしよう。	◆聞き取りの観点を示す。 ◇作品のよさを見つけている。 【関心・意欲・態度】

7 本時の活動（5／9）

（1）本時の目標

①教材文「ほたるの一生」と比べながら、自分が選んだ生き物の卵の様子がわかるように書く。 【書くこと】

②作品について助言したり、よさを見つけたりしようとする。 【関心・意欲・態度】

（2）展開

段階	教師の発問と働きかけ ○発問 ◎主発問	学習活動 ○予想される児童の反応	指導上の留意点㊟・ 評価㊟と方法
導入	1 本時の学習課題を提示する。 ○今日の課題を読みましよう。 「ほたるの一生」の書き方を手本にしながら、「〇〇の一生」のせつ明文をともしちにも分けるように書こう。	○課題を読む。	㊟書きたい生き物ごとに班をつくって座る。 ㊟成長過程のうち、本時は卵についてだけ書かせる。
展開	2 説明文の書き方を全体で考えさせる。		

展 開	○「アゲハの一生（卵）」の説明文を書こうと思います。どんなふうに書けばいいのでしょうか。 ◎どんなことを書けばいいのでしょうか。	○7月でなくて4月 ○水辺のこけでなくてもみかんの葉の裏 ○大きさは1～2ミリ ○数は100個 ○黄色で透き通っている ○時（いつ） ○場所（どこに） ○様子（どんな）	㊤「はたるの一生」の紙板書とアゲハの卵の写真・特徴メモを掲示し、比べながら考えさせる。児童の発表をもとにアゲハの説明文を黒板に作っていく。 ㊦板書を振り返りながら答えさせる。
	3 一人一人に説明文を書かせる。 ◎時・場所・様子が分かるように、「はたるの一生」を手本にしながら、自分の好きな生き物の説明文を書いてみましょう。 *児童が選んだ生き物 カブトムシ 5人 バッタ 2人 スズムシ セミ トンボ カタツムリ 2人 ザリガニ カエル メダカ サケ	○はたるの一生の説明文と生き物の一生の資料を照合しながら、書いていく。 ○9月ごろかぶとむしはふよう土の中に3ミリぐらいのたまごをうみます。1ぴきのめすがうむたまごの数は20こから30こです。… ○8月ごろ、せみはかれえだの中にさんらんかんであなをあけてたまごをうみます。…	㊧はたるの一生が併記された作文用紙と前時までに使った図鑑のコピー資料などを使う。解説文の読み取りが難しいと予想される児童には資料の大事な箇所に教師がチェックしておく。机間指導時にもつまづきがないか目をかける。また、視覚的な情報も得られるように各班に図鑑を用意し、必要に応じて活用させる。 ㊨書き終わったら間違いがないか読ませる。 ㊩卵を産む時や場所、様子が分かるように必要な事柄を選んで書いている。 【書くこと】
	4 班の中で作品を紹介し合う。 ○班の中で発表し合ってよく分かるところを見つれたり、アドバイス	○卵をいつ産むか分かる。 ○どこで産むか分かる。 ○卵の大きさが分からな	㊪作品を聞く観点を確認してから行わせる。 ㊫作品について助言した

	したりしましょう。 5 手直しをさせる。 ○アドバイスされたところを書きましょう。 6 全体で作品を紹介し合い、よさを見つけさせる。 ○何人かの人に発表してもらいます。写真と比べながら分かりやすく書けているか聞いてください。 ○どんなところが分かりやすかったですか。	い。 ○くっつきの「を」に直せばいい。など ○内容で書き足せる箇所は書いたり，誤字・脱字を直したりする。 ○作品を読む。 ○時・場所が分かる。 ○大きさや形・色も分かる。 ○たとも使っている。	り，よさを見つけたりしている。 【関心・意欲・態度】 ㊟手直しの必要がない児童は同じ班の遅れている児童にアドバイスさせる。教師も支援する。 ㊟時・場所はもちろんだが，様子が詳しく書けている作品を紹介したい。 ㊟発表に合わせて卵の写真も提示し，様子が詳しく書けていることに気づかせる。 ㊟作品のよさを見つけて発表している。 【関心・意欲・態度】
まとめ	7 本時の学習で分かったことをまとめる。 ○「〇〇の一生」をともだちにも分かるように書くには？ 時やばしょ，ようすも入れて書けば分かりやすい。 8 次時の予告をする。 ○次の時間は卵の続きからおとなになるまでを書いてもらいます。		㊟時間があれば感想も書かせたい。

〇〇の一生

① たまごからそだつ生きものの一生をしらべてせつ明文をかこう。
はたるの一生の書き方をまねしながらかこう

②

七月のはじめころ

はたるのめすは

水へのくけに

小さなたまごをみつめます。

めすがうむたまごの数は

五百から千にものほります。

たまごぎつみおえを

めすもおすもしんでしまいます。